

# 南葛勞働會の態度

## 自由聯合派及戰線同盟の惡辣な行動を見よ.....!!

今回の本所汽車會社に於ける關東鐵工組合本所支部(舊誠陸會)對機械聯合會加盟關東車輻工組合の抗爭に就て、我が南葛勞働會は、勞働階級解放戰の見地から他くまで本所支部の行動を正當と認め斷乎としてこれを極力應援して一歩も下らなないものである、詳細なる真相は、本所支部及び關東鐵工組合並に關東勞働同盟會が發表したる故こ、にはそれを除く誠陸會が合同すべく努力して、それを蹂躪され追害された爲めに、關東鐵工組合に合同することに決したのは當然である然るに車輻工組合が自己組合擴張のために、他の組合本所支部の安藤、向井兩君を排斥する爲めに階級闘争の武器であるストライキを濫用して勞働階級の戰線を擾亂し、資本家にスキを見せた事は言をまたすスバイ行動である。不正行動である。

南葛勞働會は他くまで勞働階級の道徳を守つて闘つてゐる關東鐵工組合本所支部に應援する。然るに正直なる勞働階級諸君の疑惑を起した事件は、あの戰線同盟の手になるピラである。本會はその前に車輻工組合及び其の應援團の配布せし偽虚と捏造に満ちたあのピラに就ては、諸君すら既に彼等の卑劣なるを知ること出来ると思ふ故に、くたくしく辯解する事を止す。たゞ、戰線同盟を通じて、車輻工組合への本會の態度を表明するものとして川合君外六名の署名せる所謂聲明書は、全然本會の眞意に有らざることを茲にあらためて聲明する。本會は終始一貫したる態度をもつて正當なる本所支部に應援する。あのピラに載せられた聲明書は斷じて本會の眞意より出たものではない。線戰同盟員約三十名の本會本部を突如襲撃して老母二人(留守番)を脅し本會員少數に脅迫暴行を加へて無理に書かせて持ち行きたるものであり、假に前記七名の眞意より出た聲明書にしても、それは前記七名の醜態と叫ばれるべきものであつて、南葛勞働會そのもの、醜態とはならぬ。

南葛勞働會の態度を決定する機關には大會があり理事會がある。然るに南葛勞働會そのもの、聲明書が如く宣傳した彼等の狡猾振りを吾々は冷笑するものである。と同時に組合態度の決定権を有せざる個々の組合員の行動が組合そのもの、態度を決定するもの、如く考へる彼等自由聯合論者日頃の合同論許の如何にまごはすれなるかの一端が窺はれる。本會は尚尾若の尊い死を弔ひ終つた茲今茲に彼等に對する本會の態度を決定し、今後の準備に備へた。なほ事件の責任者である本會の理事相馬、川合、南の三君はあの場合止むを得ざる行爲であつたか責任上辭職を申し出で川合君は尙ほ本會を脱會した辭職書左の如し。

## 辭職書

今回南葛勞働會ノ理事ヲ辭職ス

去ル六月二十四日戰線同盟員約三十名兇器ヲ擲テ南葛勞働會本部ヲ突如襲撃シ來リ、脅迫シテ既私途ハ今後共

同一階級間ノ暴力濫用ノ習慣ヲ作ルコトヲ避ケ、又無價値ナル流血ノ争鬪ヲ心ヨリトセズ

彼等ノ云フガマ、ニ虚偽ノ聲明書ヲ持テテ署名セシメリ、私途ノ行動ハ、無産階級ノ立場ヲ充分考慮シテノ

上ニテアリシガ、其ノ心ニモ無キ聲明書ガ惡辣ナル彼等ノ手ヨリビラトナリテ配布セラル南葛勞働會ノ正當

ナル態度ニ極惡ト誤解トナ生セシメ彼等ヲテ戰線擾亂ノ用ニ供サシメタルコトハ理事トシテ生等責任上其ノ

任ニアルニ堪エズ、依テ辭職承認下サレントナシテ

大正拾貳年六月二拾八日

理 事 相馬 一郎  
全 川 義 虎  
全 南 合 義 虎  
全 南 合 義 虎

## 南葛勞働會御中

本會は涙を呑んで三名を解任し川合君退會を承認しこの憎むべき勞働階級戰線擾亂者に對して挑戦し從來通り徹底的に本所支部を應援することに益々強い覺悟を持つた事を茲に聲明する

大正十二年七月十日

# 南葛勞働會